

		果報告書 - p.129-131		
阿蘇山のボーリングコア	下司信夫・小林哲夫	気象庁火山観測ボーリングコアの解析-平成28年度成果報告書 - p.132-133	2017年3月	国内
雲仙岳のボーリングコア	川邊禎久・小林哲夫・前野 深	気象庁火山観測ボーリングコアの解析-平成28年度成果報告書 - p.134-137	2017年3月	国内
霧島山のボーリングコア	津久井雅志・川邊禎久・下司信夫	気象庁火山観測ボーリングコアの解析-平成28年度成果報告書 - p.116-119	2017年3月	国内
薩摩硫黄島のボーリングコア	津久井雅志・川邊禎久・下司信夫	気象庁火山観測ボーリングコアの解析-平成28年度成果報告書 - p.120-122	2017年3月	国内

5. むすび

平成28年度から始まった本研究課題では、実際には年度後半からの開始となり、それぞれのサブテーマでは本格的な研究を実施することができなかった。特にサブテーマ2の研究の基本となる野外調査、トレンチ掘削調査およびボーリング掘削が冬季間であったため、ほとんど実施できなかった。しかしながら、個々のテーマおよび課題C全体でのミーティングが行われ、サブテーマ内での研究テーマ、手法および取りまとめに関して議論が進み、また課題全体での相互理解と連携が確認された。それに加えサブテーマ2では、重点火山の選定や研究手法の検討に関して、各参加機関およびサブ課題全体で有意義な議論が実施され、また北大において「マグマ変遷解析センター」が実質的に立ち上がりルーチン分析手法も確立できた。また、サブテーマ1では研究の軸となるF E - E P M Aが東大・地震

研に導入・整備され、噴出物解析を実施できる体制が整った。そしてサブテーマ3では、マグマ移動シミュレーションおよび噴火ハザードシミュレーションの開発を開始した。このように、平成28年度は準備段階として位置づけることができ、その点では順調に始動していると考えられる。そして平成29年度からが本格的な研究開始となり、まずは個々のサブテーマでの研究が展開されることを期待している。